資料彼報

第 31 号

編　集　平成 23 年 3 月 31 日

発　行　高森町歴史民俗資料館
長野県下伊那郡高森町
下市田 2243
電話（0265）35-7083

印　刷　㈲　雨　宮　印　刷
電話（0265）22-6027

武陵地一号古墳より出土の富本銭

目　次

○あいさつ …… 2
○平成 22 年度事業報告 …… 3
○平成 22 年度の記録 …… 4～6
○委員会等の記録 ……7
○研修視察から …… 8
○「時の駅」講座のようす …… 9
○平成 22 年度企画・特別展
・五月人形と武具展 …… 10
・児童生徒の作品展 …… 10
・特別展「高森の和歌と歌碑」……11～12
・特別展「資料館所蔵書画展」…… 13
・大正月飾り・小正月飾り…… 14
・雛人形と美人画展 …… 14
○小正月飾り作り教室 ……15
○学校教育との連携…… 16
○平成 22 年度資料寄贈者御芳名 …… 17
○研究調査報告
特別展「高森の和歌と歌碑」 …… 18～21
○所蔵資料 …… 22
○入館者数と利用のようす …… 22
○編集後記 …… 22

◉ごあいさつ

高森町長　熊　谷　元　尋

２月４日に、小中学生を対象にした「たかもりみらい議会」を開催しました。子ども議員からは、町が元気にあふれ、若者が定住するような、まちづくりへの提言をもらいました。

人口減少・少子高齢化が進む飯田・下伊那地域の中で、高森町の人口は、昨年実施した国勢調査によると、この５年間で２３８人増えました。しかし、飯伊地域全体では人口が減少していますので、当町でも今後人口が減少していくものと思われます。

当飯田・下伊那地域では、２０２７年にリニア新幹線の開業が見込まれています。町に若者が定住する、都会の人に訪れていただく、そのためには、都会とは違う魅力が高森町になければいけません。日本最古のお金である富本銭や国学に関する貴重な資料が残る資料館は、高森町の魅力アップにつながる場所です。

これからも、多くの方々が気軽に立ち寄ってみたくなる、そんな資料館であって欲しいと思います。

高森町教育長　光　沢　郁　夫

30周年の節目から１年・・・22年度も「時の駅講座」の開催をはじめ、特別展「高森の和歌と歌碑」の開設や、資料館所蔵の書画の展示など、工夫や趣向を凝らした魅力ある多彩な活動が展開され、多くの皆様にご利用を頂きました。資料館長をはじめ、運営委員等の関係者の皆様のご尽力に改めて感謝を申し上げます。

また、時代とともに「小字名」の使用が失われつつあるなかで、念願の『高森の地名図（山間地）』が刊行されました。すでに、平坦地の地名図については平成５年度に刊行されていましたが、これで町の全体の地名図が完成したことになります。この間、お骨折りを頂きました資料館調査委員の皆様、並びにご協力を頂きました諸先輩の皆様に、心から敬意と感謝を申し上げます。この地名図が、後世に「小字名」を継承し、各地区の山林の管理や保護等に役立つことを期待したいと思います。

さらに、町の未来を担う子どもたちが、郷土の歴史や文化に学ぶ「ふるさと学習」にも力を注いでいます。小学校では、「市田柿のふるさと高森町」や「松岡城址などの郷土の歴史」等について学び、中学校では、「国学と高森」を題材に学習活動が進められました。これからも、文化財の保存や展示はもとより、生涯学習の場として、また「ふるさと学習」の場として、子どもから大人まで、より多くの皆様にご利用を頂けることを願いながら、資料館報第31号に寄せる言葉といたします。

資料館運営委員長　宇佐美　卓　二

去る１月15日、今年度で３回目となる小正月飾りを当館ロビーに立てました。今回初めて小学生とそのお母さん方が参加され、又偶然当館へ学習に来ていた高校生も飛び入りで参加し、大勢で楽しく賑やかに飾り付けができました。小正月飾りは、昭和40～50年頃迄の農家では、その年の農作物や蚕の豊作を願う伝統的習慣でしたが参加されたお母さん方は全く経験が無かったそうです。このように、私達が今現在でも気付かないうちに消えて行く伝統・風習がいくつもあるものと思います。当館の活動が少しでもこのような伝統・風習を拾い起こし、先人達の「思い」を伝えることの一助となればと願っております。高森町には沢山の文化財があり、資料館にも貴重な文化財・資料が収蔵されています。気軽に立ち寄り、故郷の歴史と文化に触れ、先人達の「思い」を理解し、心が「なごむ」そんな館となればありがたいことです。幸い町内外から、これからの世代を担う若い学生が多数訪れ、学校教育との連携が一層強くなって来ましたことは、誠に喜ばしい限りです。今後益々愛され、楽しみながら学べる館となりますよう、一層のご支援ご協力のほどお願い致します。

❖平成 22 年度　事業報告

館長　手　塚　勝　昭

高森町歴史民俗資料館ができて今年で 31 年が過ぎ、新館の「時の駅」が増築され、はや 11 年が経過しました。これも町民の皆様のご支援の賜物と心から感謝申し上げます。

平成 22 年度の入館者数は 8,075 人、入館団体数は 163 団体で、昭和 54 年の本館の開館からは、177,588 人もの方が利用してくれております。

［1］企画・特別展の開催　〈入館者数〉

①　五月人形と武具展（5 月）〈756 人〉　②特別展「高森の和歌と歌碑」（7 月）〈1,106 人〉
③特別展「資料館所蔵書画展」（11 月）〈435 人〉
④雛人形と美人画展（3 月）〈760 人〉　※大・小正月飾り教室（12～1 月）〈86 人〉
○平成 21 年度から小・中学校絵画展を町民ギャラリーで行う。（中学 11 月、南小 1 月、北小 3 月）

［2］「時の駅」講座（10年次）〈受講者数〉

①第 1 講座	7 月　3 日「歌会始の話」	小林正人　氏	57 名
②第 2 講座	9 月　4 日「光専寺」	宮原祐敬　氏	33 名
③第 3 講座	11 月　6 日「下伊那の養蚕業の現況と展望」	近藤昭弘	23 名

［3］高森町古文書研究会

毎月第 2 木曜日の午後、資料館研修室で行なった。講師は竹内昭一氏。
特別研究会（2 月）の講師は、飯田市山本の山内尚巳先生。毎回　約 17 名の会員が、郷土の古文書解読の学習をしつつ、親睦を深めている。2 月の特別研究会には 37 名が参加。

［4］研修視察

10 月 6～7 日に、伊那谷の国学と関係が深く国学が盛んな松阪市・伊勢方面へ研修視察。資料館の委員・職員の15名が参加。国学四大人の一人本居宣長記念館と市田柿発祥の地にあった伊勢社に関わる伊勢神宮等を訪れ、国学についての理解を深めることができた。

［5］ともに学ぶ

今年度は、のべ 50 学級が来館し、学習した。

高森南小　3～6 年（28）　高森北小　4・6 年（3）　高森中 2 年（2）
豊丘南小　2 年（2）　大鹿小 5・6 年（2）　ホームステイ（13）

他に下市田史談会、郡小学校校長会、飯田人権擁護委員会、家庭園芸教室、南信仏画研究会、副町村長会、高森町議会議員、今村清之助子孫の会等多くの方が巾広く来館してくれてありがたかった。

［6］委員会の活動

①　運営委員会　3 回　実施　資料館の運営と反省について協議
②　調査委員会　5 回　実施　「高森の地名図（山間地）」完成。

［7］その他

○特別展「高森の和歌と歌碑」と関連のある時の駅講座「歌会始の話」を企画したところ、その 7 月の月間来館者数は歴代 3 位の 1,106 人であった。
○出前講座が増えてきて、現地で本物に触れながら学習（南小 6 年→秋葉塔の塚・松岡城、南・北小 4 年→惣兵衛堤防、中学→国学と本学神社等）ができ、社会人では、山吹上地区・下市田史談会・副町村長会・下伊那教育会地理同好会・町議会議員等へ行って、「本学神社の創建」や「市田柿の由来」等についての講座を行うことができた。
○ここ数年、質問、調査、古文書を読んでほしい等種々の要望が増加しているので、本や古文書のある研修室や学習室を開放し、自由に調査や学習をする場所として開放をしていきたい。
○南小 6 年 2 組が、玄関前と学習室横の花壇にチューリップ、パンジーなどを植え、環境美化活動を尽くしてくれ、又、南小ボランティア委員会が落ち葉掃き等に来てくれ感謝。
○天理教高森支部の皆さんが毎年 4 月の昭和の日に奉仕作業をしてくれて感謝。

⇜平成22年度の記録⇝

４．１　新年度発足(館長、主事、臨時各１名)
　２　高森町史学会役員会（９名）
　３　南信仏画の会（５名）
　６　市孝会（15 名）
　８　第１回古文書研究会（17 名）
　９　在宅介護の会 OB（６名）
　12　高森町史学会研修旅行（１泊）
　　「上州高崎市の古刹巡り」（22 名）
　14　第１回資料館運営委員会（７名）
　15　駐輪場屋根修理終了
　21　下市田史談会総会　館長講話「幕末維新期における下伊那の国学」（30 名）
　21　旧館駐車場に鯉のぼりの飾り付け（５名）
　22　「樹木剪定」「芝生の管理」等の入札説明会
　22　第１回資料館調査委員会（13 名）
　24　南信仏画の会（８名）
　25　家庭園芸教室（49 名）
　28　千鶴萠会高森支部の皆さんの東京木目込人形の飾り付け（13 名）
　29　天理教の皆さんの奉仕作業（20 名）
　30　豊丘南小２年１、２組（57 名）
５．１　特別展「五月人形と武具展」５月 30 日まで
　２　高森南中学校 37 年度卒３年 A 組（12 名）
　７　高森北小６年　社会科学習（26 名）
　７　高森南小６年２組　社会科学習（31 名）
　９　家庭園芸教室（51 名）
　11　高森南小６年 1, 3, 4 組 社会科学習（92 名）
　13　第２回古文書研究会（18 名）
　13　第１回資料館活用委員会（８名）
　13　喬木村伊久間　和の里の会（22 名）
　15　鼎下山９班５組（20 名）
　15　大阪府門真市立第五中学校三年生ホームスティ（７名）

天理教の皆さんによる草取り作業（4 月）

５．19　大阪市立住吉中学校三年生ホームスティ（14 名）
　27　藤井寺市立第三中学校三年生ホームスティ（10 名）
　29　南信仏画の会（８名）
　30　下市田一区自治会（58 名）
　30　御前崎小・中学生（35 名）
　30　藤沢市立第一中学校三年生ホームスティ（４名）

あがたの杜古代学同好会の皆さん（６月）

６．１　刀の手入れ　　中塚義弘氏
　４　吉田郷倉文書調査会＝むらの昔しらべ調査委員会（12 名）
　８　高森南小６年社会科学習（126 名）於：武陵地一号古墳
　８　高森町史学会役員会（12 名）
　９　第２回資料館調査委員会（13 名）
　10　第３回古文書研究会（17 名）
　12　家庭園芸教室（47 名）
　15　高森南小６年２組　花壇手入れ（31 名）
　17　高森南小６年２組　花壇花植え（31 名）
　25　あがたの杜古代学同好会（12 名）
　26　高森町史学会総会（23 名）
　26　南信仏画の会（６名）
　26　むらの昔しらべ調査委員会（11 名）
　　於：吉田区民会館
　27　高森環境塾（76 名）
　30　高森南小６年２組　花壇の手入れ（31 名）
７．１　特別展「高森の和歌と歌碑」７月 31 日まで
　１　牛牧老人クラブ（43 名）
　３　第１回「時の駅」講座
　　小林正人氏「歌会始の話」（57 名）
　３　高森町への転入者の皆様（17 名）
　４　高森町短歌同好会主催の柿の里短歌フォーラム（57 名）
　６　郡小学校長出張研修会（44 名）
　７　ふれあいサロン出原お茶飲み会（20 名）

8　古文書研究会館外研修 :諏訪市･茅野市(12 名)
9　高森南小３年1, ４組 社会科学習（62 名）
9　高森町史学会正副役員会（５名）
10　六仁会（14 名）
11　蚕玉様百年祭（90 名）
館長出席　於：山吹上地区館
13　高森南小３年２・3組 社会科学習（60 名）
14　鼎名古熊いきいき教室（20 名）
15　上郷古文書クラブ（11 名）
16　文化財の会（４名）
18　高松古文書クラブ（５名）
24　むらの昔しらべ調査委員会（18 名）
於：吉田区民会館
25　高森町史学会地域めぐり（21 名）
27　尖石縄文考古館ボランティアサークル(20 名)
27　下市田三区高寿会（11 名）
30　第２回資料館活用委員会（８名）
30　市田柿由来委員会役員会（４名）

六仁会で町政について説明される町長（7月）

8．1　高森南小スポーツ少年団野球部六年生（９名）
3　遠藤英子さん（首都大学東京大学院生）
考古資料のレプリカ作成
3　第３回資料館調査委員会（13 名）
8　家庭園芸教室（47 名）
10　市田柿由来研究委員会（16 名）
12　第５回古文書研究会（12 名）
17　市田中学校 29 年卒同年会（15 名）
18　飯田女子短期大学（国学ゼミ）
小林先生引率（６名）
28　南信仏画の会（６名）
28　むらの昔しらべ調査委員会（18 名）
於：吉田区民会館
29　淡交会長野県支部南信青年部（14 名）
9．1　高森町史学会役員会（４名）
3　町会議員へ館長講話「松岡氏と井伊氏、高森と中津川市、伊那谷の国学」（10 名）

下伊那保護司会北部分区の皆さん（9月）

4　第2回「時の駅」講座　宮原祐敬氏
「光専寺」(33 名)
4　家庭園芸教室（42 名）
5　茶臼山のろし台まつり　館長参加
5　南小スポーツ少年団野球 保護者会 (22 名)
7　高森南小５年社会科授業「市田柿づくりのさかんな高森町」（132 名）
9　第６回古文書研究会（18 名）
10　高森町史学会幹事会（８名）
11　むらの昔しらべ調査委員会（15 名）於：吉田区民会館
13　下伊那保護司会北部分区（16 名）
22　第２回資料館運営委員会（６名）
22　町田市立南大谷中学校二年生ホームスティ 3 グループ（14 名）
25　南信仏画の会（８名）
27　飯田人権擁護委員会北部部会（18 名）
28　今村清之助子孫の会（15 名）プロジェクターを寄贈される
10．1　福島県伊達市曳地一夫さん夫婦　柿の調査で来館
5　大鹿小５・６年生来館（20 名）
6　資料館委員･職員の研修視察（1泊）
本居宣長記念館・伊勢神宮等(15 名)
10　家庭園芸教室（43 名）
11　むらの昔しらべ調査委員会（18 名）
於：吉田区民会館
14　第７回古文書研究会（15 名）
14　駒澤大学岡村氏　片桐家古文書撮影に来館
17　高森町消防団の救急講習会（17 名）
20　下伊那郡副町村長会研修会で「市田柿の歴史」を館長講話（11 名）於：高森町役場
22　第4回資料館調査委員会(16 名)
22　館長出張授業　高森南小6年の秋の遠足で「松岡氏について」於:松岡城址(127 名)
23　市田柿由来委員会役員会（４名）
23　北原利雄氏の郡下初の手作り柿剥き機寄贈

に対し感謝状を贈呈
23　豊橋市の松下智氏が片桐家の茶室調査で来館
24　坂城町の宮下氏が平田国学の調査で来館
26　北原斌夫氏の特別展への展示品協力に対し感謝状を贈呈
30　南信仏画の会（８名）
30　高校社会科の会（10 名）
11．２　特別展「資料館所蔵書画展」11 月 30 日まで
６　第３回「時の駅」講座　近藤昭弘「下伊那の養蚕業の現況と展望」（23 名）
11　第８回古文書研究会（12 名）
15　むらの昔しらべ調査委員会（15 名）於：吉田区民会館
15　高森南小６年２組　花壇へパンジーを移植（31 名）
27　南信仏画の会（10 名）
27　高森町史学会幹事会（９名）
30　高森南小ボランティア委員会の窓拭き・落葉掃き作業奉仕（15 名）

高校社会科の会の皆さん（10 月）

12．１　高森北小４年生　社会科学習（49 名）
２　市田柿由来委員会幹事会（６名）
７　高森中2年1，2組の出張授業「身近な地域の歴史～国学（尊王攘夷）と高森」（82 名）
７　刀の手入れ　中塚義弘氏
９　第９回古文書研究会（16 名）
９　たかもり花づくり、人づくり講演会（44 名）
16　高森町史学会幹事会（11 名）
20　むらの昔しらべ調査委員会（11 名）
28　大正月飾りの飾付け　唐沢哲男さん
28　高森町史学会幹事会（９名）
１．13　臨時資料館運営委員会（５名）
13　第10回古文書研究会（17 名）
15　小正月飾り作り教室（23 名）
16　スポーツ少年団南野球部保護者会（24 名）
18　高森南小ボランティア委員会の窓拭き奉仕作業（16 名）
25　高森中学校改築のため、書画等一時保管品の搬入
30　山吹上地区新春放談会で館長館外講座「本学神社の創建」（28 名）

雛人形を見学する
みつば保育園の皆さん（3月）

２．１　第３回資料館活用委員会（８名）
２　高森南小４年生　社会科授業「昔の道具」「惣兵衛堤防」（118 名）
５　高森町史学会幹事会（９名）
９　平成 23 年度予算理事者査定
10　第 11 回古文書特別研究会（37 名）
10　市田柿由来委員会幹事会（６名）
12　韓国京畿大人文学史学科教授　南相虎先生が調査に来館
19　地理同好会　館長講話「本学神社の創建と維新期の山吹藩」（19 名）
26　南信仏画の会（５名）
28　美人画教室の皆さんによる美人画飾り付け（9名）
３．１　特別展「雛人形と美人画展」３月 31 日まで
２　第３回資料館運営委員会（７名）
２　みつば保育園　雛人形見学（56 名）
２　下市田保育園　雛人形見学（32 名）
４　第５回資料館調査委員会（13 名）
８　高森町史学会研修旅行「岡崎城と渥美半島への旅」（１泊）（23 名）
10　下市田保育園　雛人形見学（104 名）
10　古文書研究会総会及び第 12 回研究会（19 名）
11　東日本大震災が発生（高森町震度４）資料館の影響は軽微
15　下市田二区高寿会（８名）
17　高森南小卒業式　館長出席
23　子ども自然観察教室（72 名）
23　牛牧十王の秋葉大権現・金毘羅大権現碑　高森町有形文化財指定報告会　館長出席（21 名）
26　南信仏画の会（10 名）
27　本学神社祭典　館長参列（32 名）

資料館
委員会等の記録

1. 運営委員会

〈　委　員　〉
宇佐美卓二　　北林　勝士
鈴木　大和　　吉川　恭子
吉森　宏人

〔委員会の主な活動〕
○委員会（年３回）
４月　本年度の運営についての協議
・企画・特別展について
・「時の駅」講座の確認
・学社連携事業の促進
９月　本年度事業の見返しと来年度の運営について
・特別展
・「時の駅」講座
３月　本年度の事業報告と来年度の方向
○研修視察
調査委員との研修視察（10 月６日～７日）

2. 調査委員会

〈　委　員　〉
（山　吹）　齋藤　榮成、塩澤　　孝
（吉　田）　塚平　増男、中塚　　悟
（下市田）　片桐　　猛、唐木　孝治、中村　忠敬
（上市田）　下平　清志
（牛　牧）　小林　正人
（大島山）　本島　義文
（出　原）　岩田　邦人

〔委員会の主な活動〕
○委員会　（年５回）
・「高森の地名図（山間地）」の作成
○研修視察
運営委員との研修視察（10 月６日～７日）
輪中の郷・松阪市の本居宣長記念館・伊勢神宮等を視察

運営委員会で挨拶をする光沢教育長

運営委員会

3. 古文書研究会

〈　組　織　〉
・会　長　小林　正人（牛　牧）
・副会長　寺沢　ゆき（山　吹）
・会　計　手塚　勝昭
・監　事　北澤善二郎（下市田）
・講　師　竹内　昭一（下市田）
・顧　問　林　　藤人（牛　牧）
福島　壽子（下市田）
原　　次郎（下市田）
・幹　事　岡田　茂信、近藤　昭弘
・会　員　22 名（うち５名は町外の会員）

〔活　動〕
○定例会　（毎月第２木曜日）
郷土に関する古文書の読解を通しての研鑽の他に、館外研修（７月に諏訪方面）を実施し会員相互の親睦を図っている。
○特別研究会
山内尚巳先生を特別講師としてお招きしての古文書学習会。（町内外の一般の方も参加）

古文書研究会の様子

古文書研究会

委員 研修視察から

本年度の資料館運営委員・調査委員・職員の研修視察は、10月6日（水）7日（木）に15名が参加して実施された。過去2年間、国学に関する研修視察を行ってきたが、本年度も国学四大人の一人である本居宣長の記念館をメインとする視察を実施した。

水害や防災に関するビデオを鑑賞

輪中の郷は、輪中に関する展示館や産業体験学習館等の他に約1haの体験農園も備えた施設である。輪中では、収穫した米は母屋より高い場所に建てられた水屋に運び込み、堤防が決壊した時には母屋を流失させないために、家財道具を水屋に運んだ後全ての戸を開け放して水屋に避難したこと等、輪中ならではの苦労や水害を克服するための工夫や努力を知ることができた。また、この一帯は木曽川と長良川に挟まれた海抜－1.2mに立地しているため、万が一堤防が決壊した時には、隣接するドーム（体育施設）に住民が緊急避難することになっているとのこと。

本居宣長記念館では、宣長が35年を費やして執筆した「古事記」注釈の集大成「古事記伝」をはじめ自筆の文書や自画像など、館内に展示された宣長に関する資料（その多くが重要文化財や県有形文化財に指定）を吉田館長さんの案内で見学する。28歳で医師を開業した宣長は、夕方往診から帰宅するのを待っていた弟子たちに国学について講義をし、夜更けてから二階の部屋に籠って「古事記」の注釈に取り組んだという。その二階の床の間近くに、36個の小鈴を赤い紐に結びつけた「柱掛鈴（すずのや）」を掛け、行き詰まった時にはその鈴を鳴らして気持ちを落ち着かせたことから、二階の書斎を「鈴屋」と命名したという。この鈴は宣長の没後、親しかった人たちに形見分けとして贈られ、その一つが本学神社に奉納され当資料館に寄託されたものであることをお聞きし、その価値について再認識することができた。

伊勢神宮内宮では、吉田神社の平沢宮司の紹介で特別参拝をすることができた。御正宮で参拝後、式年遷宮で新しい社殿が建てられる新御敷地を見ながら神楽殿に向かう。神楽殿では、神職からお祓いをしていただき、雅楽器の演奏による4人の巫女の優雅な舞を見学する。本物の雅楽器の厳かな演奏に、日本古来の優雅な文化を堪能することができた。

本居宣長記念館で吉田館長より説明を聞く一行

本居宣長旧宅にて

五十鈴川より神楽殿に向かう

伊勢神宮の御正宮にて

「時の駅」講座のようす

第 11 回「時の駅」講座の第１講座は、町の老人大学で短歌の講師をされている小林正人氏が、宮中歌会始に入選された経験から、歌会始の概要や参列された時の様子を中心に短歌についてのお話を、第２講座は光専寺の宮原祐敬住職に、本堂に掲示されたお寺に伝わる古い書画をはじめ十王石仏も安置された閻魔堂や、徳本上人と天遊上人の名号碑等の貴重な文化財についてのお話をしていただいた。第３講座は、かつては日本の経済を支え重要な産業であった養蚕業が衰退する現在、良質な生糸の生産を目指して現在も頑張っている農家や製糸工場等の取り組みについての講義と、本年度も多くの皆さんのご協力で実施することができた。

第１講座「歌会始の話」

７月３日（土）　57 名受講
講師　資料館調査委員
小林　正人　氏

開講式での挨拶（宇佐美運営委員長）

歌会始の概要等について話をされる小林氏

第２講座「光専寺の話」

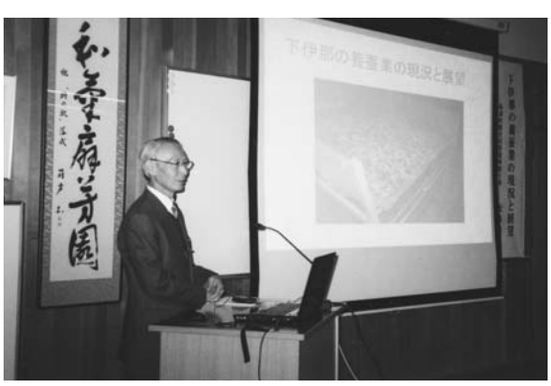
９月４日（土）　33 名受講
講師　光専寺住職
宮原　祐敬　氏

本堂で話をされる宮原住職

狩野信政作の屏風絵二双

第３講座「下伊那の養蚕業の現況と展望」

11 月６日（土）　23 名受講
講師　資料館主事
近藤　昭弘


第三講座の様子

閉講式での挨拶（北林運営副委員長）

平成 22 年度 企画・特別展

企画展 五月人形と武具展

5月1日～5月30日
入館者 756 名

本年度は、例年展示する各種の五月人形や甲冑・刀剣等の他に、師範会千鶴萠会高森グループの皆さんがお練りの年に合わせて大名行列の東京木目込み人形を展示してくださり、参観者の皆さんに好評であった。

各種の五月人形

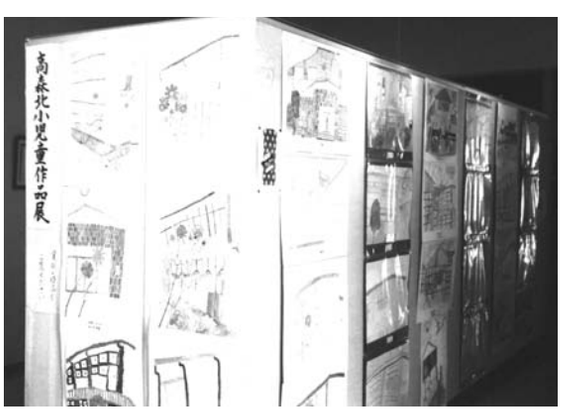
鯉のぼりと甲冑

お練祭りの目玉「大名行列」

表情豊かな東京木目込み人形

児童・生徒の作品展

今年も町内小中学校の先生方のご協力で、町民ギャラリーに児童・生徒の作品（絵画や習字）を展示させていただいた。資料館を訪れた多くの皆さんが、足を止めて熱心に見入っていた。



来館者の方々に好評な児童・生徒の皆さんの作品

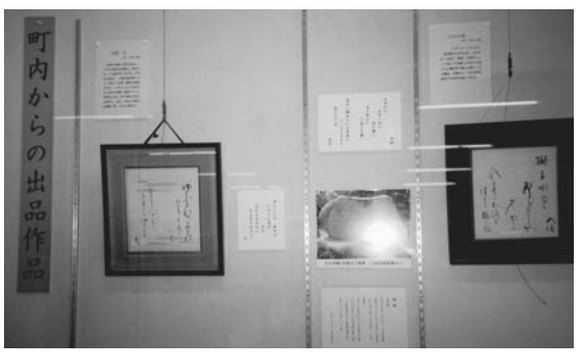
作品を鑑賞する他校生徒の皆さん

特別展
「高森の和歌と歌碑」

7月1日～7月31日
入館者 1,106 名

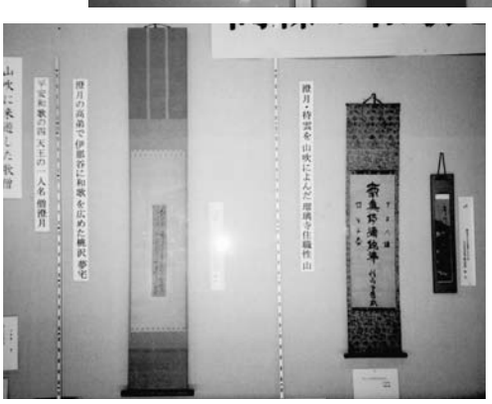
高森町で和歌づくりが盛んになったと考えられる江戸時代の山吹藩の歌人や名僧等に関わる資・史料をはじめ、町内にある歌碑や新年の歌会始に入選された方々の和歌や写真等を展示した。和歌に関心がある方はもちろん、町内外の多くの皆さんが作品に熱心に見入っていた。

座光寺為忠公の歌碑と「相生の松」の軸



町内からの出品作品

山吹藩家老の短冊と掛軸



桃沢夢宅と性山（瑠璃寺住職）の短冊

高森町内の歌碑

平成 22 年度　特別展「高森の和歌と歌碑」展示目録

（敬称略）

	主な内容	史（資）料名等	所蔵・場所等
1	江戸時代山吹座光寺藩の和歌 （1）高森の和歌隆盛の礎を築いた藩主・家老		
	①山吹藩に和歌隆盛をきたした七代為忠公等の領主	①領主 ○小掛軸…為重（第2代） ○懐紙書…為忠（第7代） ○座光寺為忠公歌碑 （片桐猛氏撮影） ○「相生の松」の軸 ○短冊…通祇（第8代） ○短冊…為巳（第11代）	座光寺家蔵 片桐家文書 松川町元大島 本館蔵 片桐家文書 座光寺家蔵
	②領主とともに和歌隆盛に尽くした家老	②家老 ○八郎太夫～「篆書」軸 ・短冊 ○源栄～短冊 ・源栄歌集 ○源一～短冊 ・「古今倭歌集」（写） ○春一～歌稿…軸 ・短冊	片桐家文書 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
	（2）山吹に来遊した歌僧 ①平安和歌の四天王の一人名僧澄月 ②澄月の高弟で伊那谷に和歌を広めた桃沢夢宅	①澄月…書簡 ・歌集「垂雲和歌集」 （源栄写） ・「故澄月法師三回追福和歌」 ②夢宅…短冊 ・書簡	片桐家文書 〃 〃 〃 〃

歌会始の入選・佳作作品（高森町関係）

展示を見学する鼎名古熊いきいき教室の皆さん

（敬称略）

	主な内容	史（資）料名等	所蔵・場所等
1	③澄月・待雲を山吹によんだ瑠璃寺住職性山	③性山…短冊	片桐家文書
		・書簡	〃
		・「南無阿弥陀仏」軸	瑠璃寺蔵
	④性山と同時代に活躍した光専寺住職天遊	④天遊…書簡２通	片桐家文書
		・「南無阿弥陀仏」碑（片桐猛氏撮影）	光専寺
	⑤領法寺の小僧から江戸谷中感応寺の住職になった海侃	⑤海侃…書簡	片桐家文書
		・短冊	〃
		・歌掛軸	領法寺蔵
		・起行院大僧都法印海侃霊塔（片桐猛氏撮影）	領法寺
2	高森の歌碑	①久保田延陣歌碑	下市田日影
		②斎藤茂吉歌碑	出砂原港公園
		③可円彗恭律師歌碑（片桐猛氏撮影）	吉田宮島氏墓
		④宮脇三四歌碑	吉田城山公園
		⑤西島岡墓碑	牛牧西島岡墓
		⑥下平貞夫歌碑	牛牧神社
		⑦下平貞夫歌碑	飯田市今宮公園
		⑧松山歌碑	大島山岩口宅前
		⑨太田水穂・四賀光子歌碑	上段道路瑠璃寺上
		⑩地主桜縁起（後沢重雄歌）	大島山瑠璃寺
		⑪第 27 番札所観音堂御詠歌	上市田丸金前
		⑫中塚丈夫歌碑	吉田中塚宅庭
		⑬本島桂一歌碑	吉田本島家墓
		⑭斎藤伸歌碑	山吹北小北
		⑮斎藤伸歌碑	山吹斎藤家裏
		⑯斎藤登歌碑	山吹斎藤家裏
		⑰中塚三好歌碑	山吹駅前
		⑱松尾多勢子歌碑	山吹本学神社
		⑲山吹短歌会歌碑（一番碑）	山吹山の寺
		⑳山吹短歌会歌碑（二番碑）	山吹山の寺
		㉑大井廣歌碑	山吹ゴルフ場下

（敬称略）

	主な内容	史（資）料名等	所蔵・場所等
3	高森町の歌会始入選・佳作者	（1）下平貞夫	下平喜代美家蔵
	（1）下平　貞夫	①歌…色紙と短冊	
		②入選の証状と賜箱	
		③写真…額、④歌集	
	（2）佐々木愛作	（2）佐々木愛作	佐々木学家蔵
		①歌…色紙	
		②写真	
	（3）小林　正人	（3）小林正人	小林正人家蔵
		①歌…掛軸	
		②入選の証状と賜箱	
		③写真…額　④カンテラ	
	（4）小林　勝人	（4）小林勝人	小林勝人家蔵
		①歌…掛軸	
		②入選の証状、③写真	
4	町内からの出品作品	①源一と佐竹蓬平の軸	本島義文家蔵
		②斎藤　史色紙	小林正人家蔵
		③太田水穂色紙	〃
		④林　安一色紙	〃
		⑤林安一の歌集と遺稿「山柿」	林　兵一家蔵
		⑥斎藤茂吉色紙	齋藤榮成家蔵
		⑦斎藤茂吉短冊	北城昭久家蔵
		⑧斎藤茂吉門下「アララギ歌人」	齋藤榮成家蔵
		⑨斎藤　伸短冊	〃
		⑩本島桂一歌碑拓本	木村昌之家蔵
		⑪寺沢一善色紙	寺沢三晃家蔵
		⑫篠田友仙短冊と軸	篠田　昭家蔵
		⑬片桐　良短冊	〃
		⑭今尾富志短冊と歌集	今尾春彦家蔵
		⑮松岡鳳州歌集「裁松庵梦之蹟」	松源寺蔵

特別展

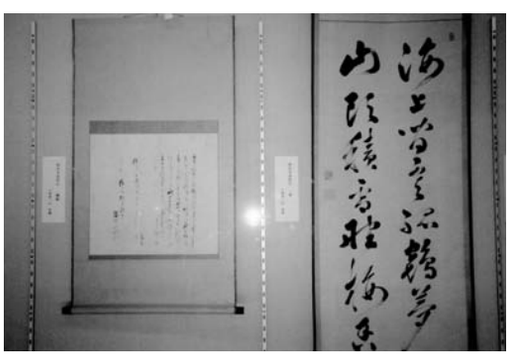
「資料館所蔵書画展」

11 月 2 日～11 月 30 日
入館者 435 名

山吹藩家老を務めた片桐家をはじめ、寺沢達夫家、福島正夫家、片桐和夫家等から最近資料館に寄贈された書画（38 点）を展示した。平成９年度に同様の特別展を行っているので、今回はその時に展示されなかった物やそれ以後に寄贈された書画を展示した。

篆書（片桐為清作）と漢詩（片桐源栄作）

「虎」「馬」「大黒」（座光寺為忠公作）



座光寺為忠公作の懐紙と座光寺為邕公作の書

「明永寺のしだれ桜」「北方より望む風越山」（吉沢的美作）

館長の案内で作品に見入る皆さん

平成 22 年度　資料館所蔵書画展　目録

NO	作者名	備考	寄贈者
1	片桐為清（片桐家9代）	書 篆書	片桐春一氏
2	片桐源栄（片桐家10代）	書 漢詩	片桐春一氏
3	片桐春一	歌稿	片桐春一氏
4	座光寺為忠公	絵「虎」	片桐春一氏
5	座光寺為忠公	絵「馬」	寺沢達夫氏
6	座光寺為忠公	絵「大黒」	片桐春一氏
7	座光寺為忠公	書 懐紙	片桐春一氏
8	座光寺為邕公	書	片桐春一氏
9	賀茂真淵	拓本	片桐春一氏
10	平田篤胤	書 稿本	片桐春一氏
11	平田篤胤	拓本	片桐春一氏
12	平田銕胤	平田篤胤の歌・画（色刷り）	寄託 本学神社
13	平田銕胤	平田篤胤の歌・画（白 黒）	片桐春一氏
14	平田銕胤	平田篤胤の歌・画（色刷り）	片桐春一氏
15	平田篤胤	拓本	片桐春一氏
16	平田篤胤	神代文字印刷	片桐春一氏
17		神代系図（印刷）	片桐春一氏
18	中村元恒	書	片桐春一氏
19	日下部鳴鶴	書	片桐春一氏
20	片桐為清、源栄、源一、春一	印譜	片桐春一氏
21		伊勢両宮図（印刷）	片桐春一氏
22		五人合作墨絵	片桐春一氏
23		小華の絵	片桐春一氏
24		冨士浅間太神（印刷）	片桐春一氏
25		本居宣長の歌	寄託 本学神社
26		万声大統譜	片桐春一氏
27		赤懸歴代尺図（印刷）	片桐春一氏
28		梧荘絵	片桐春一氏
29	雰山書 木村立峯絵	東宮殿下御歌	片桐春一氏
30	清原宜種	書	片桐春一氏
31	藤庵	写	片桐春一氏
32	黄揚楼主人書	知足辨	片桐春一氏
33	平田銕胤	四大人御像	寄託 本学神社
34	富岡鉄斎	鉄斎揮毫の石碑の拓本掛軸	福島正夫氏
35	吉沢的美	絵「明永寺のしだれ桜」	片桐和夫氏
36	吉沢的美	絵「北方より望む風越山」	片桐和夫氏
37	壬生黛山	書「獅子吼」	福与貞雄氏
38		浮世絵「芸者」	福与貞雄氏

大正月飾り

今年も下市田の唐沢哲男さんと上沼啓孝さんのご好意で、資料館の玄関脇に伝統的な立派な門松を飾ることができた

伝統的な門松

小正月飾り

町内の小学生の皆さんにも参加してもらい、賑やかに飾ることができた小正月飾り。

小正月飾りを眺める子どもたち

企画展「雛人形と美人画展」

3 月 1 日～3 月 31 日
入館者 760 名

町内の皆様から寄贈された御内裏様や各種の雛人形の展示に合わせ、町の公民館の美人画教室の皆さんの作品を、またロビーには吊るし雛（渡辺真喜子さん作）も展示させていただいた。

華やかな展示会場

穏やかな表情の御内裏様

美人画教室の皆さんによる艶やかな作品

温かさが伝わる吊るし雛

「小正月飾り作り教室」

昨年までは運営委員の皆さんが作ってくださった小正月飾り（繭玉と餅花）を、本年度は町内の小学生の皆さんや保護者の方にも参加してもらい、賑やかに飾ることができた。

後日、社会科の授業で資料館を訪れた児童の皆さんに、希望者には餅花を持ち帰ってもらいますと話したところ、翌日には餅花を分けて欲しいという児童が長蛇の列をつくるほどの賑わいだった。餅花を持ち帰った児童のお宅では、きっと楽しい会話がなされたことでしょう。

小正月飾りの由来について話をする館長

出来上がった小正月飾りを背に記念写真

居合わせた高校生も一緒に繭玉作り

餅花の飾りつけ

見事な出来栄えの小正月飾り
（繭玉と餅花）

学校教育との連携

将来を担う子どもたちが、生まれ育ったこの高森町に誇りと愛着を持って生きていって欲しいというのは、町民の誰しもが抱く共通の願いかと思う。そのためにも、子どもたちが郷土の歴史や文化について学ぶことは大変重要で、小中学校の先生方に資料館の積極的な活用をお願いしてきた。ここ数年は、資料館に展示された古い道具類の見学や、学習室を使っての授業の他に、中学校や松岡城址等へ出向いての授業で地域の歴史や産業についての学習に取り組んで頂き、先生方の前向きな姿勢に感謝しております。

館長の説明に聞き入る
豊丘南小２年生

富本銭について学習する
大鹿小５・６年生

実物の土器に触れて学ぶ
北小６年生

市田柿の歴史について学習を
する南小５年生

現地学習で武陵地１号古墳につ
いての説明を聞く南小６年生

惣兵衛堤防の説明を聞く
北小４年生

国学についての学習をする
高森中２年生（出張授業）

花壇の手入れをする南
小６年２組の皆さん
（３年間継続しての活動）

南小ボランティア委員会の
皆さんによる窓拭き作業

平成 22 年度　資料寄贈者御芳名

❖民俗資料・その他

（敬称略）

品　名	数量	氏　名	住　所
柿品種調査展覧会報告	1	今川　博司	下市田
書籍「山彦」下平貞夫遺歌集	1	下平　喜代美	牛牧
書籍「邂逅」	1	木村　昌之	吉田
書籍「榾火」	1	片桐　妙子	吉田
書籍「中村壁と遺墨たち」	1	村澤　聡	南信州新聞社
書籍「日本主義」	1	林　登美人	上郷飯沼
書籍「今尾富志歌日記」	1	今尾　春彦	山吹
プロジェクター	1	今村清之助子孫会	出原
今村清之助君事歴	1	林　登美人	上郷飯沼
書籍「外遊漫録」今村清之助	1	林　登美人	上郷飯沼
今村清之助葬儀写真	2	林　登美人	上郷飯沼
むらの昔しらべ目録	1	吉田区長　中塚泰臣	吉田
屏風 書 六曲一隻	1	田切　久治	上市田出身
掛軸 上巳節句掛 美人園遊画	1	田切　久治	上市田出身
美人画「蛇の目傘」木村操水画	1	木村　操	下市田
銚子	1	平　和司	下市田
火鉢	1	平　和司	下市田

プロジェクター

美人画「蛇の目傘」

火鉢と銚子（三三九度の時に用いた）

❖書籍・刊行物

（主な物・敬称略）

品　名	数量	氏　名	住　所
信州飯田領主 堀候	1	飯田美術博物館	飯田市
清内路 歴史と文化1	1	東大大学院人文社会科	東京都
写真集「豊橋の文化財」	1	豊橋市美術博物館	豊橋市
日夏耿之介コレクション目録Ⅱ-書簡編-	1	飯田市美術博物館	飯田市
飯田市歴史研究所年報８	1	飯田市歴史研究所	飯田市
古代の役所　律令時代のイナとシナノ	1	上郷考古博物館	飯田市
遠江井伊氏物語	1	龍潭寺	浜松市
獅子舞　ユーラシアから伊那谷へ	1	飯田市美術博物館	飯田市
遠山谷中部の民俗	1	飯田市美術博物館	飯田市
東の牛伏寺 西の若澤寺	1	長野県立歴史館	千曲市
縄文時代の大形石棒	1	國學院大學学術資料館	東京都

ご案内と募集

ご　案　内

♣開館時間　午前 9 時～午後 4 時 30 分
♣休 館 日　月曜日・祝日の翌日・年末年始
♣学習室・研修室・町民ギャラリー

町民の皆さまに開放しております。
学習室・研修室は、諸会合・学習等に、町民ギャラリーは、作品等の展示にご利用ください。

募　　集

古文書研究会を毎月第２木曜日午後1時より研修室にて開いております。どうぞご参加ください。

研究調査報告

特別展「高森の和歌と歌碑」

館長　手塚勝昭

一　はじめに

高森町山吹は、江戸時代旗本座光寺氏1、400石の知行地であった。藩主座光寺氏は代々学問・文化を大事に考え知行地を治めた。中でも第七代為忠公は、学を好み仏教に帰依するとともに文武両道に励み、特に歌道を家中や領民に勧め、歌道勃興の気運を促進した。そして、伊那谷が、幕末維新期平田篤胤没後の門人を全国でも最も多く輩出した礎を築いたとも云われている。このようなことから、高森町は、昔から和歌を詠う人が多く、毎年行われる新年の宮中歌会始の入選者も飯田下伊那地方の６人の内４人が高森町出身者である。

そこで、今回の特別展では、高森町の和歌づくりが盛んになったと盛んになったと考えられる江戸時代山吹藩の歌人や山吹藩を訪れた名歌僧に関わる資・史料等を展示するとともに高森町内にある歌碑や新年の歌会始に入選された方々の歌や写真等も展示した。そして、この特別展を通じて、日本文化の中心に位置づく和歌への関心や理解を深めていただくとともに高森町の先人達が和歌等の文化を大事に考えて心の充実を願って日々過ごしてきたことを理解していただくことを願ってこの特別展を開催した。

二　江戸時代山吹座光寺藩の和歌

(1) 高森の和歌興隆の礎を築いた藩主・家老

1　山吹藩に和歌興隆をきたした七代為忠公等の藩主

①　二代為重公の掛軸

「今よりは願いを掛けて観音　さかえひさしき山咲の里　　為重」

②第七代為忠公の歌碑（郡下最古の歌碑－松川町下大島）

（前詞）柏原といへる所に一つの社あり又相生の松あり　いく星霜をかふりにけん　しけりあひていとかうゞしく　昔は此のわたり旅人の往きの道となん　されは神垣も宿の明神とかや聞ゆ客ありて予に言の葉をもとめけれは座光寺丹後守七世孫　源　為忠

「瑞垣のまつもいもせの
名にふりて千とせのみさほ
神やめつらん
天明四甲辰弥生」

2　領主とともに和歌興隆に尽くした家老

①片桐八郎太夫（為清）短冊と篆書

「千とせをものべの若菜につみて見ん　むかしまれなるとしをはじめに　為清」

②片桐源栄　短冊と歌集

「ねられずよいのねられずよいかにして　ねなばねられんねまほしき哉　栄」

③片桐源一　短冊と古今倭歌集（写）

「いろいろにつきて咲にし花よりも　あはれいづれ霜のしら菊　源一」

④片桐春一　短冊と歌稿

「ますらをが大づついだきはなつ音は　山々ゆるかときききのかしにき　春一」

(2) 山吹に来遊した歌僧

1　平安和歌の四天王の一人名僧澄月　垂雲和歌集と故澄

月法師三回追福和歌

・信濃山吹の館にてはしめての歌の会に竹亭聞鶯

「鶯のこゑもおくある此宿の　竹やいく世のねくら成らん」

2　澄月の高弟で伊那谷に和歌を広めた桃沢夢宅　短冊と書簡

・人の漸待花といふことをよめるついてに

「ひさしくてことしはみへきふる里の軒端のさくらふゝみつるかな　夢宅」

3　澄月・待雲を山吹によんだ瑠璃寺住職性山　短冊と書簡と掛軸

・寄竹祝

「直なるこころを老のことゝてや　ちよをなを見ん軒の若竹　性山」

4　性山と同時代に活躍した光専寺住職天遊　書簡と名号碑（写真）

「南無阿弥陀仏」の名号軸

5　領法寺の小僧から江戸谷中感応寺の住職になった海侃　短冊と書簡と歌碑

・天王寺をゆすりて川崎円楽寺に隠居せし時

「なからへてありとてもなき数の人なりと世にはいはれむ」

・天保十四年六月十一日命終らんとせしときにのぞみて

「なきかすの人といひしはむかしにて今そ　まことの南無阿弥陀仏」

三　高森の歌碑

(1) 久保田延陣歌碑（下市田）

「やれやれと思うまもなく六十こへねがうところは今みそしほと」

(2) 斎藤茂吉歌碑（下市田）

「向こうより瀬の白波激ち来る天竜川におり立ちにけり」

(3) 宮脇三四歌碑(吉田)

「丘に来て育ちし村を見わたせば懐かしさ湧く我が家もあり」

(4) 下平貞夫歌碑(牛牧)

「おほいなる齢かさねし人達が集いたのしむみ社の庭」

(5) **太田水穂/四賀光子歌碑**（大島山・歌略）

(6) 地主桜縁起(大島山)

「頼朝公寄進の桜咲き盛り獅子と落花舞ひ交う」

(7) 中塚丈夫歌碑(吉田)

「糸価すでに五百円割らむとして桐咲くころの村はさびしも」

(8) 斎藤　伸歌碑(山吹)

「松木立をとほす光のまぶしけれとき惜しみをりこの都か山か」

(9) 斎藤　登歌碑(山吹)

「病葉と紅黄葉との境なくみな散り果す秋は厳しも」

(10) 中塚三好歌碑(山吹)

「水清くやまぶきの咲く駅ありきまた見むものと伊那の旅ゆく」

(11) 松尾多勢子歌碑(山吹)

「ものいはて神もうれしとおもほさむこの山吹のにいみやところ」

(12) 大井　廣歌碑（山吹・歌略）

(13) 山吹短歌会歌碑（一番碑・山吹・歌略）

(14) 山吹短歌会歌碑（二番碑・山吹・歌略）

※以下は墓碑等の側面等に彫られた碑（歌は略）

(1) 可円慧恭律師碑（吉田）**(2) 西島岡墓碑**（牛牧）**(3) 松山碑**（大島山）

(4) 本島桂一墓碑（吉田）

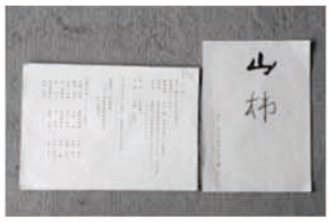
「元きでゆこふよ沖縄島へてきかんめがけてたいあたり」

(5) 第 27 番札所観音堂御詠歌（上市田）

四　町内からの出品作品（町内の方のみ）

(1) 片桐源一と佐竹蓬平の掛軸

(2) 林安一色紙と歌集と遺稿「山柿」



(3) 斎藤　伸短冊

(4) 寺沢一善色紙

(5) 篠田友仙短冊と掛軸と歌集

(6) 片桐　良色紙と歌集

(7) 今尾冨志短冊と歌集

(8) 松岡鳳州歌集

(9) 本島桂一歌碑拓本

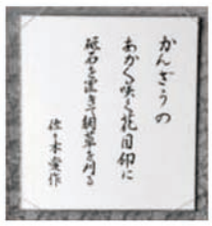
五　高森町関係者の歌会始入選･佳作の紹介

(1) 下平貞夫

○昭和４１年「声」入選

「おほかたの家起きたれば豆腐売る吾が声すこし大きくしゆく」

○４４年「星」佳作　　○４６年「家」佳作



(2) 佐々木愛作

○昭和４９年「朝」佳作

「かんざうのあかく咲く花目印に砥石を置きて朝草を刈る」

(3) 小林正人

○平成５年「空」入選

「空高く安全旗あげし構内に梨専用の貨物車を組む」

○２０年「火」佳作

○２２年「光」佳作

(4) 小林勝人

○平成１９年「月」佳作

「モンゴルの黄砂あらしも夜は凪ぎて植林隊のゲルに月照る」

六　おわりに

旗本座光寺氏七代為忠公の頃、近郷の名歌僧大島山瑠璃寺性山、吉田村光専寺天遊和尚等が足繁く山吹を訪れ和歌の交流をした。さらに性山の縁により澄月・待雲等日本を代表するような名歌僧

が山吹の地へ来遊するようになった。また、澄月の高弟、桃沢夢宅とも深く結び付き、山吹藩の和歌・学芸の熱は急速に高まった。

伊那谷の和歌と国学は、密接不離の関係にあり、和歌は国学を伴って次第に盛んになり、国学は和歌を通して庶民にまで浸透していったと云われる。これを学統という観点にたってみると、純歌学的系統と復古国学系統の二つに分けられる。澄月・夢宅等を師と仰いで和歌の道に励んだ人々の系統と、宣長・篤胤の学問、思想に共鳴して復古国学に没頭した人々である。動的国学といわれた平田国学は、幕末維新期伊那谷に於いて開花したとさえいわれる。その礎となったのが、山吹における為忠公の頃の和歌の興隆と云われる。そして、その流れが現在の高森の和歌の興隆につながっているのだろうか。（文中敬称略）

追分・蚕玉様 100 年祭に出席して

追分地区の蚕玉様100年祭にご招待を受け出席した。地域の皆さん 90 余名が山吹上生活改善センターに集まり、明治 42 年(1909)に建立された蚕玉様の 100 年祭を祝った。

この碑は、高さ 150 ㎝、幅 130 ㎝の山吹地区では最も大きな蚕玉様で、「蚕神」という文字は実に堂々と力強く書かれ、彫られており、当時追分地区の皆さんがいかに盛んに養蚕業に打ち込んでいたかを物語る立派な石碑であると思った。

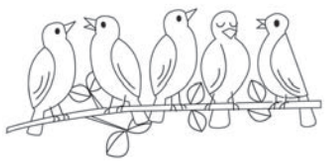
この蚕玉様の祭りについて、北城昭久氏・北城達美氏お二人からお話があった。明治 42 年 9 月に蚕玉様のお祭りを始めたが、その頃追分は 31 戸の集落であったという。明治時代の末期というとこの伊那谷は水田化されていない段丘面や扇状地が桑園として活用され、養蚕業が盛んになった時期なので、追分地区も桑を栽培し蚕を飼って収入を上げた。だが、蚕は病気に弱く、桑の出来も天候に左右され、養蚕は農家の大事な収入源であるので、農家の養蚕にかける期待は大きく、繭の豊作を願って蚕神を祀ったり、糸取りのために命を捧げてくれた蚕の霊を祀るなど蚕霊神信仰が盛んになり、追分地区でも蚕玉碑を建立したと考えられる。また、万部様もお祭りしたという。万部様とは、町内で最も古い経典供養塔で、座光寺氏初代為真公が元和 9 年（1623）に建て、その後 5 代為勝公が元禄 16 年（1703）に修復再興したと云われている「万部塚」のことで、阿弥陀経・法華経等の経典を、一千部読誦すると非常な供養になるとして、千部読経法会(千部会)を営むことがあったという。

【100年祭のため、しめ縄の張られた蚕玉様】

追分地区では、戦争中と戦後の混乱期に中断しただけで、昭和 26 年には蚕玉様と万部様のお祭りを復活して、現在まで毎年行ってきたという。養蚕業が衰退した今も先人の守ってきた蚕霊神信仰・経典供養の心を大事にしておられる追分地区の皆さんの地域の歴史を大事に生きる姿に接し、心温まるものを感じたひと時だった。

（手塚　記）

所蔵史・資料



○考古資料　多数（町内出土品・寄贈品等）
○歴史資料　約５００点
（座光寺家、片桐家、越田家他の武具・古文書類、水戸浪士通行時の資料、市田陣屋、市田宿、山吹役場関係書類、市田柿関係等）
○民俗資料　　約４,０００点
（農家の居間、農業、養蚕関係道具、民具、雛人形、五月人形、貨幣、衣装類など）
○美術工芸品　　約１３０点（額類、書画、書軸）
○図書類　　約２,３２０点

入館者数と利用のようす

〈 入 館 者 数 〉（単年度及び開館以降の累計）

○平成 22 年度の単年度入館者数
８,０７５名（町内　６,６６８名　町外　１,４０７名）
○昭和 54 年 11 月（開館）～平成 23 年３月 31 日までの累計
１７７,５８８名（町内　１３８,３６６名　町外　３９,２２２名）

高森町史学会総会（６月）

家庭園芸教室の様子（10 月）

下伊那教育会地理同好会の皆さん（２月）

編集後記

本年度は、資料館の調査委員の皆さんに平成 19 年度から調査活動を進めていただいた、高森町の山間地の地名を冊子として刊行することができました。私たちが生活していく上で山林との関わりが薄れてしまった昨今ですが、大切な山林の地名を後世に残すためにこの冊子が少しでもお役に立てば嬉しい限りです。

３月のある日、町の図書館を訪れた時に、一年生くらいの女の子から「資料館のおじさん」と声をかけられました。続いて「あの刀はどこから出てきたの？」という質問で、数日前資料館で展示した雛人形を見学に来てくれたみつば保育園児だということが分かりました。引率された保育園の先生が、雛人形に続いて考古の展示物も見学させてくれたのですが、その女の子の質問が雛人形でなく考古の展示物についてだったので、意外なことに驚くと共に素朴な質問に心が温まる思いがしました。

ちょっとした疑問や興味を覚えたことがあったら気軽に足を運んでいただけるような、そんな資料館を目指して努力したいと思います。今後とも皆様方の一層の温かいご支援・ご指導のほどをお願い申し上げ、編集後記といたします。

（近藤　記）